

## 一般質問通告書

受領日時 令和7年11月26日 午前・午後11時00分 9番 氏名 工藤政彦

質問項目	質問の要旨
1 クマ出没による 商店・朝市への 影響への対策と しての商品券配 布について	<p>○近年、町内におけるクマの出没が増加し、町民生活や経済活動に大きな不安と影響を与えている。特に、クマ出没情報が続く時期には、商店への来客が減少し、また五城目朝市においても来場者数の落ち込みが見られるなど、地域経済に深刻な影響が生じている。</p> <p>クマ対策の一環として、町民に対し、五城目朝市および町内商店で利用できる商品券を配布する施策を検討できないか。</p> <p>この商品券は、かつてコロナ禍で実施された「オール五城目応援商品券」のような町民支援と商店活性化を兼ねた仕組みを参考に、次のような方式を考える。</p> <p>質問1</p> <p>商品券の形態について、朝市開催日（2・5・7・0の付く日）に限って利用可能とし、一枚の券を「朝市用」と「商店用」の二つの半券に分ける方式とすることで、商店で半券を使った場合でも、残りの半券を利用するために朝市へ足を運ぶ必要が生じ、結果として朝市への誘客・活性化につながると考える。</p> <p>このように、朝市と商店の双方を支援する、町内経済循環型の商品券方式について、町としてどのように評価されるか伺う。</p> <p>質問2</p> <p>商品券の使用範囲について、朝市プラスでの利用も検討したいところだが、町外からの出店者との判別が難しいことから、現実的には対象外とせざるを得ないと考えるが、この点について、町としての見解を伺う。</p> <p>質問3</p> <p>商品券の額面については、例えば1万円であれば朝市5千円、商店5千円とするなど、対等に配分する仕組みが想定される。</p> <p>この金額設定・財源確保の可能性について、町としてどのように考えるか示してもらいたい。</p>

<p>2 恋地スキー場跡地の利活用について（ハート型モニュメントの設置を提案）</p>	<p>○先日11月17日の全員協議会において、スキー場設置条例を廃止する方針と、併せて恋地スキー場跡地の今後の利活用については「未定」との報告を受けた。地域資源として貴重な場所であるだけに、住民の関心も高く、今後の方向性は重要な課題であると考える。</p> <p>以前の一般質問において、「恋地」という地名が“恋の地”というロマンを感じさせる魅力的な名称であることから、北海道の「幸福駅」のように、若い世代が訪れ、二人の恋が実る象徴的な場所として展開できないかという提案をした。恋地という名が、大きな観光ブランドとなり得る可能性を秘めていると、今も感じている。</p> <p>恋地周辺には、馬場目川上流の奇岩「ネコバリ岩」をはじめ、途中の友愛館には映画『釣りキチ三平』のメモリアル展示があり、さらに旧北ノ又冬季分校を活かした農家レストラン「清流の森」など、点在する魅力ある地域資源が揃っている。</p> <p>これらを結び付ければ、魅力ある観光ルートとしての発展も期待できる。</p> <p>質問1</p> <p>過去には芝桜を用いたハート型の演出を提案したところだが、北斜面では芝桜が育ちにくいことも分かっている。</p> <p>そこで、芝桜に代わる案として、高さ2.5～3メートルのハート型モニュメント（ハートの中に人が立てる）を設置し、その中央のハートのくびれ部分に「幸せのベル」を下げ、訪れた人が鳴らすことで“幸福を願う”体験ができる仕掛け。このベルを鳴らした人に幸運が訪れる。そんな象徴的な観光スポットとして整備できれば、若者をはじめ、多くの方が訪れる“恋の地”としての発信が期待できる。このようなシンボリックな整備について町としてどのように評価されるか伺いたい。</p> <p>質問2</p> <p>前述の「ネコバリ岩」や友愛館、清流の森など、既に存在する地域資源との連携により、恋地エリアを観光ルートの一端として位置付けることは可能と考えるが、町としての方針を伺いたい。</p> <p>質問3</p> <p>恋地「恋の地」という名称を活かし、跡地を訪れた人に“幸福を与える場所”として発信することは、地域の魅力向上にもつながると考えるが、町としてこのコンセプトをどのように受け止</p>
---	--

	<p>め、今後の利活用検討に反映していく考えがあるのか伺う。</p>
<p>3 職場における男性育児休業の取得促進について</p>	<p>○県が実施した調査によれば、令和6年度の県内における男性の育児休業取得率は33.5%と過去最高となり、14年連続で増加している。取得率は令和2年度の約3倍に達した一方で、直近では微増にとどまり、依然として女性の9割超の取得率との大きな差が存在する。</p> <p>国の制度改正などにより、男性育休取得が進みつつあるものの、今後は「男性も取得するのが当たり前」という職場風土づくりや、欠員補充体制の整備といった、企業側・社会側のさらなる取り組みが求められている。</p> <p>こうした状況を踏まえ、五城目町としても、男女が共に仕事と育児を両立できる環境整備を一層推進すべき段階に来ていると考える。</p> <p>質問1</p> <p>五城目町内における男性育児休業の取得実態について、町内企業における状況の把握、町職員の取得率など、現時点でのデータと町の認識を伺う。</p> <p>質問2</p> <p>国の制度改正により取得しやすい環境が整いつつある中で、町として、企業への周知・相談支援、書類手続きや制度理解のサポートなど、取得促進に向けた具体的支援策を検討しているか。</p> <p>質問3</p> <p>男性育休取得を進める上で課題とされる、職場の雰囲気づくり、意識改革、不在を補う体制整備といった点について、町としてどのような課題認識を持ち、対応を検討しているのか。</p> <p>質問4</p> <p>今後、五城目町として、「男女がともに育児と仕事を両立できる町」を目指すにあたり、町内企業との連携強化、働き方や子育て支援策との一体的推進について、どのような方向性を描いているのか。</p>